

平成30年度

保健福祉学部附属診療センター

年報

目次

I 年度目標と実績

II 診療実績

III 教育実績

IV 研究業績

V 従事者名簿

平成30年度目標と実績のまとめ

目標

- ①医療安全対策の継続実施
 - ★医療安全のための定期点検・安全対策の周知
- ②今後の役割と施設機能の方向性の検討
 - ★診療体制の検討
 - ★備品の計画的な更新
 - ★附属診療センターの存在意義を学内外に発信

実績

- ①医療機関としての安全管理体制整備
 - ◆附属診療センターヒヤリ・ハットの減少
 - ◆診療体制の整備(看護師・非常勤職員)
 - ◆安全対策のための環境整備(転倒予防対策)
 - ◆医療安全研修会の実施
 - (7月25日 ICUの過去・現在と医療安全に関して 土手健太郎先生
 - 12月12日 摂食嚥下障害リハビリテーションと栄養管理 矢守麻奈先生)
- ②教育および研究のための体制の充実
 - ◆実績 初診患者 190名 再診患者 4,534名 リハビリテーション 2,582件
学内実習 99名 学内者見学 283名
 - ◆年報の公開
 - ◆広島県地域リハビリテーションサポートセンター指定施設(平成30年1月1日より継続中)
- ③今後の役割と施設機能の方向性の検討
 - ◆診療体制の整備(看護師・非常勤職員)
 - ◆備品の計画的な更新
 - ◆附属診療センターの広報
 - 教員免許状講習 シティカレッジ 公開講座等
 - ◆オープンキャンパスでの情報発信(見学者約492名)
 - ◆学外者の研修の受け入れ
 - 学外者見学 107名(うち専門職種研修者 5名)

来年度計画

- ①医療安全対策の継続実施
 - ★医療安全のための定期点検・安全対策の周知
- ②今後の役割と施設機能の方向性の検討
 - ★安定的な体制維持にむけての診療機能の検討
 - ★備品の計画的な更新
 - ★附属診療センターの存在意義を学内外に発信

H30年度統計

①地域別

地域	初診	再診	実人数	のべ人数
三原市	100	415	515	2,172
尾道市	30	125	155	632
広島市	6	16	22	61
福山市	32	113	145	501
三次市	0	1	1	1
呉市	0	2	2	4
世羅郡	2	15	17	87
豊田郡	0	0	0	0
沼隈郡	0	0	0	0
竹原市	5	15	20	111
廿日市市	0	0	0	0
東広島市	1	7	8	28
府中市	5	16	21	50
安芸郡	1	2	3	16
神石郡	0	2	2	7
庄原市	0	1	1	1
大竹	0	0	0	0
山口	4	2	6	19
岡山	1	3	4	10
関西	2	1	3	15
九州	1	0	1	1
合計	190	736	926	3,716

②年齢別

年齢	初診	再診	実人数
3歳未満	5	1	6
3歳	6	2	8
4歳	9	3	12
5歳	26	17	43
6歳	25	33	58
小1	13	40	53
小2	4	47	51
小3	11	43	54
小4	6	62	68
小5	11	41	52
小6	5	46	51
中1	10	45	55
中2	2	39	41
中3	1	49	50
高校生	1	68	69
19歳～20歳	1	9	10
21歳～30歳	10	46	56
31歳～40歳	7	16	23
41歳～50歳	7	19	26
51歳～60歳	10	23	33
60歳以上	20	87	107
合計	190	736	926

③初診患者の主診断名

診断名	人数
自閉症スペクトラム	54
知的障害	24
注意欠陥多動障害	30
その他の小児神経疾患	12
発声・嚥下・構音障害	36
難聴	4
その他の耳鼻科疾患	6
高次脳機能障害・認知症・脳血管疾患	4
発作性神経疾患	0
脊髄・神経・筋疾患	1
精神科疾患	3
整形外科疾患	6
その他	10

Ⅲ 教育実績

【授業・見学】

科目名	学年	人数	期間	回数	内容
社会福祉実習指導Ⅲ	3	5	2月～6月	5	神経内科の診察(原田医師)に同席して、患者の症状やニーズ、医療の対応について学習した。医師の丁寧な問診や検査を間近で学び、その役割について理解を深めた。
認知系障害学概論Ⅰ	2	29	通年	12	失語症のある患者さんと原語聴覚士のコミュニケーション場面をビデオ撮影し、映像を授業で活用した。また、スクリーニング検査および標準失語症検査場面を観察・記録させ、評価報告書などの作成データとして活用した。
認知系障害学概論Ⅱ	3	32	通年	10	失語症および高次脳機能障害のある患者さんのスクリーニング検査、失語症に関する総合検査、精査などの場面を観察・記録させ、評価報告書などの作成データおよび訓練計画を考えるためのデータとして活用した。
発達系障害学演習Ⅰ	3	30	前期	2	K-ABC2発達検査の検査結果の解釈演習・レポート作成課題の基となる検査データについて、当診療センターでの自験例を改変して提示した
感覚統合療法特論	3	29	前期	1回	当診療所にも通院しており、地域の放課後等デイサービスを利用している児9名、その他2名の幼児に協力を得て、感覚統合理論に基づいたアセスメントおよび、プログラムを立てて実践した。
認知系障害学演習Ⅰ	3	32	4～7月	6	失語症や高次脳機能障害のある方に対する検査方法や症状を具体的に理解させるために、検査場면을提示した。
ケアマネジメント	1	31	6月	1	失語症のある方のケアプランを考えるにあたり、失語症の症状やコミュニケーション方法を具体的に理解させるために、ビデオを提示した。
発達系障害学概論Ⅱ	3	31	7月	1	脳性麻痺児の拡大代替コミュニケーション(AAC)使用について、評価と活用方法を具体的に説明するためにビデオを提示した。
社会福祉実習指導Ⅲ	3	2	7月	2	ソーシャルワーク面接に同席して、患者、家族が抱える思いや社会生活上の困難、面接の進め方について学習した。実際の面接を間近で見ること、ソーシャルワーカーの役割についての理解が深まった。
発達系障害学演習Ⅱ	3	30	後期	9	・田中ビネー知能検査の解釈演習・レポート作成課題の基となる検査データについて、当診療センターでの自験例を改変して提示した ・評価報告書作成演習・訓練計画立案演習において、演習で提示される模擬患者の諸検査を、当診療センターでの自験例を改変して提示した
コミュニケーション障害診断法	2	29	後期	8	ビデオで提示する事例について、本診療センター内施設を利用して作成した

Ⅲ 教育実績

【授業・見学】

科目名	学年	人数	期間	回数	内容
聴覚系障害学概論Ⅰ	2	28	11月	1	聴覚障害のある患者さんに参加いただいて学生との交流会を行ない、学生が聴覚障害について理解を深める機会とした。
理学療法概論Ⅱ	1	29	12月	1	1年次生を対象とし、理学療法士だけでなく言語聴覚士、診療放射線技師といった多職種の業務や実際の治療について見学・説明を行い、理解を深めた。
医療ソーシャルワーク	2	35	2019年1月21日	1	履修学生全員で、診療センターの施設・設備を見学し、診療センターの機能を学び、合わせてリハビリテーション専門職の役割を理解した。

【実習】

科目名	学年	人数	期間	回数	内容
臨床実習I	2	29	通年	5	・ビデオで提示する事例について、本診療センター患者の訓練の様子を本診療センター内施設を利用して作成した
臨床実習 I (コミュニケーション障害学科)	2	29	通年	30	言語聴覚障害のある患者さんに協力いただき、学生2～3名が1組になり、言語聴覚療法の見学を、1組あたり年間3回実施した。
臨床実習 II (コミュニケーション障害学科)	3	31	通年	104	言語聴覚障害のある患者さんに協力いただき、言語聴覚療法についての評価・計画立案・言語聴覚療法実施・報告書作成などを内容とする実習を、学生1人につき年間8回実施した。
臨床実習 III (コミュニケーション障害学科)	4	29	4～8月	11	患者さんに協力いただき、耳鼻咽喉科医師による診察場面の見学を、各学生1回ずつ行なった。
臨床実習 III (コミュニケーション障害学科)	4	29	4～11月	22	患者さんに協力いただき、小児科医師による診察場面の見学を、各学生1回ずつ行なった。
臨床実習 III (コミュニケーション障害学科)	4	29	4～11月	17	患者さんに協力いただき、神経内科医師による診察場面の見学を、各学生1回ずつ行なった。

【卒業研究】

卒業論文タイトル
視線検出センサーを用いた最重度知的障害児の認知機能の評価の試み
失語症者の会話パートナーに求められるコミュニケーションスキル –アプリを含むAACの活用–
失語症者の階層性アプリの操作能力 –ハード面からの分析–
Vocal Function Exercises短縮版における訓練効果の検討
随意的筋収縮が脳皮質運動野の活動性に与える影響
低頻度振動刺激が脳皮質運動野の活動性に与える影響
短時間仮眠が作業効率と脳波活動に与える影響
環境色が作業効率と脳波活動に与える影響
音の感じ方とその要因の研究

IV 研究業績

【論文】

論文名	雑誌名, 巻号頁	著者名	発表年月日
Association between the profile of mood states and autonomic nervous system activity during sleep in female students.	.International Medical Journal 25 (1): 66	Iida T, Kunishige M, Ito Y, Tatsumi A, Nagaoka K, Ezoe S, Harada T	平成30年2月
構造適応型Deep Belief Network を用いた癌予測結果とその階層成長型自己組織化マップによる特徴分析の試み.	第19回自己組織化マップ研究会2018講演論文集, pp.11-16	鎌田真, 市村 匠, 原田俊英	平成30年3月
既修の知識と技術を統合する多重課題演習とシャドウイング実習から得られた3年次看護学生の学び	日本看護科学会誌 37, 446-455	岡田麻里, 今井多樹子, 井上 誠, 近藤美也子, 土路生明美, 船橋眞子, 永井庸央, 松森直美	平成30年3月
Impacts of Tai Chi on balance in healthy young adults.	International Medical Journal 25 (2): 92-94	Harada T, Fujita T, Yamamoto S, Ishizaki F, Nitta Y, Aoi S, Ikeda H, Hiroto H, Iida T, Nitta K	平成30年4月
検診結果ビッグデータを用いた構造適応型Deep Belief Networkの癌予測システムと知識発見.	2018 IEEE SMC Hiroshima Chapter Young Researchers WorkShop, pp.63-69	鎌田真, 市村 匠, 原田俊英	平成30年7月
地域在住高齢者を対象としたアミューズメントと有酸素運動を併用した認知症予防プログラムの効果～12ヶ月間の介入による検討～.	日本認知症予防学会誌8(1):21-28	國重雅史, 石附智奈美, 飯田忠行, 川畑なみ, 福田浩士, 橋本弘子, 原田俊英, 宮口英樹	平成30年8月
県産品を用いた嚥下機能維持・改善訓練用具と摂食嚥下障害対応食品の開発	県立広島大学 平成29年度重点研究事業研究成果の概要p19-20	矢守麻奈, 栢下淳, 山縣誉志江, 東山寛隆, 秋枝克昌, 山田幸子, 柴田八重	平成30年8月
齢者における食欲不振の要因	言語聴覚研究15巻3号P201	柴田八重, 矢守麻奈	平成30年9月

IV 研究業績

【論文】

論文名	雑誌名, 巻号頁	著者名	発表年月日
喉頭気管分離術により経口摂取可能となった一症例	言語聴覚研究15巻3号P247	東山寛隆, 土本正治, 田中芳幸, 矢守麻奈	平成30年9月
要介護高齢者における酸味冷触刺激の効果	言語聴覚研究15巻3号P271	秋枝克昌, 矢守麻奈, 木村有花, 村田和弘	平成30年9月
高齢者の食事自立度に関する高次脳機能の要因	言語聴覚研究15巻3号P273	山田幸子, 北川奈恵, 村松真理, 半田有葵, 矢守麻奈	平成30年9月
Adaptive structural learning of deep belief network for medical examination data and its knowledge extraction by using C4.5.	Proc. of The IEEE International Conference on Artificial Intelligence and Knowledge Engineering (AIKE 2018), pp.30-40	Kamada S, Ichimura T, Harada T	平成30年9月
鏡視下腱板修復術後の複合性局所疼痛症候群(CRPS)に対する知覚識別課題とMirror Therapyを併用した作業療法実践は2点識別覚と運動イメージおよび疼痛を軽減させる: 予備的検討	作業療法ジャーナル 52(9): 1087-1093, 2018.	平賀勇貴, 久野真矢, 問田純一, 平川善之	平成30年9月
Relationship between acceleration plethysmography and headphone high-resolution music box audio.	International Medical Journal 25 (5): 327-329	Ito S, Harada T, Ishizaki F, Yamamoto R, Niyada K, Miyazaki H, Nitta Y, Suehiro K, Nitta K	平成30年10月
健康な准高齢者に相応する中高年女性における主観的幸福感と心理的指標や生活習慣病関連指標との関連性.	健康科学と人間形成 4(1): 5-13	羽山美和, 原田俊英, 飯田忠行, 青井聡美, 池田ひろみ, 石崎文子	平成30年10月
Relationship between Frontal Assessment Battery scores and activities of daily living /instrumental activities of daily living ability in older adults	The Journal of Physical Therapy Science 30 (10): 1237-1240, 2018. DOI https://doi.org/10.1589/jpts.30.1237	HISANO Shinya	平成30年10月

IV 研究業績

【論文】

論文名	雑誌名, 巻号頁	著者名	発表年月日
A Preliminary Study on Scrolling and Selecting Graphic Symbols on Touch-Screen among Individuals with Aphasia	Proc. of 13th International Symposium on Advanced Science and Technology in Experimental Mechanics, Paper ID: A06077, 6 pages(CD)	Tetsuya Hirotoomi, Tomu Danura, Mineko Boooka, Chisato Shibasaki, Haruka Ikeno	平成30年10月
Effects of lemon beverages on bone metabolism and bone mineral density in postmenopausal women: a double-blind, controlled intervention study with Ca-supplemented and unsupplemented lemon beverages.	Open Journal of Preventive Medicine 8: 301-314	Ikedo H, Iida T, Hiramitsu M, Inoue T, Aoi S, Kanazashi M, Ishizaki F, Harada T	平成30年
Influence of a program combining amusement and exercise on subjective well-being: six-month intervention study with a complex-type program for community-dwelling elderly subjects.	Open Journal of Preventive: 266-281	Kawabata N, Iida T, Miyaguchi H, Kunishige M, Ishizuki C, Hashimoto H, Ito Y, Harada	平成30年
動的姿勢制御に対する時間帯の影響	理学療法科学 34(1) 79-82	松浦晃宏, 富村浩太, 苅田哲也, 近藤至宏, 吉野開, 石川衛, 森大志	平成31年1月
県立広島大学コミュニケーション障害学科における実習前プログラムの効果と課題—学生へのアンケート結果より	人間と科学19巻1号 p43-48	津田哲也, 矢守麻奈, 中村文, 小澤由嗣	平成31年3月

【著書】

タイトル	著者名	担当範囲	出版社	出版年月日
知的障害援助専門員養成通信教育テキスト	林優子	分担執筆	日本知的障害者福祉協会	平成30年4月
ことばと文字「特集」日本語の読み書きに希望をつなぐために〈第2部 論考〉言葉の認知能力の加齢変化と言語の神経基盤	辰巳格, 渡辺眞澄	分担執筆	くろしお出版	平成30年4月
日本語学大辞典「言語障害」	渡辺眞澄	分担執筆	東京堂出版	平成30年10月
やさしい高次脳機能障害用語事典「統語訓練」「生成文法理論」ほか、32項目	渡辺眞澄	分担執筆	ぱーそん書房	平成30年12月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
「地域おこし協力隊活動vs学生」シンポジウム・パネリスト	原田 俊英	「地域おこし協力隊活動vs学生」シンポジウム	平成30年1月
家庭で役立つ認知症予防について.	原田 俊英	県立広島大学高大連携公開講座	平成30年2月
知って得する！認知症の診断・治療・予防.	原田 俊英	広島市南区老人クラブ連合会・友愛活動シルバーリーダー研修会	平成30年2月
高齢者施設における食生活の支援 ~言語聴覚士からの情報提供~	矢守麻奈	広島県老人福祉施設連盟 平成29年度研修会	平成30年2月
パーキンソン病診療の実際~ケース・スタディから~.	原田 俊英	三次市学術講演会(主催:大塚製薬株式会社)	平成30年3月
摂食嚥下リハビリテーションと栄養管理の効果	矢守麻奈	公益財団法人健和会リハビリテーション研修会	平成30年3月
構造適応型 Deep Belief Networkを用いた癌予測結果とその階層成長型自己組織化マップによる特徴分析の試み (Prediction Result of Cancer by Adaptive Structural Learning of Deep Belief Network and Approach for Its Feature Analysis by Growing Hierarchical SOM).	鎌田真, 市村匠, 原田俊英	第19回自己組織化マップ研究会 2018 (19th Annual Meeting of Self-Organizing Maps in JAPAN 2018)	平成30年3月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
病棟で実施可能な摂食嚥下機能の評価・訓練	矢守麻奈	医療法人仁康会本郷中央病院 摂食嚥下委員会	平成30年4～6月
ADHDに対する薬物療法の客観的評価～肥満指数と社会交流指標を用いて～	林優子 土路生明美 鴨下加代	第21回広島発達障害研修会	平成30年4月
発達障害児の肥満への支援	土路生明美、鴨下加代、林優子	第21回広島県発達障害研究会	平成30年4月
Early weight gain effects of second-generation antipsychotic treatment in autism spectrum disorder (自閉症スペクトラムに対する第二世代抗精神薬投与初期の体重増加)	林優子 土路生明美 鴨下加代	第60回日本小児神経学会学術集会	平成30年5月
高齢者の摂食嚥下障害を検出・改善・予防するには？	矢守麻奈	三原市医師会研修会(八日会)	平成30年5月
歩行の神経科学	森大志	Synapse設立10周年記念講演会	平成30年6月
学習に困難を持った子どもの早期発見・支援方法	細川淳嗣	第44回広島児童青年精神医学研究会	平成30年6月
<学会発表>当科における音声治療についての検討	田口亜紀	第119回日本耳鼻咽喉科学会総会学術講演会	平成30年6月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
失語症者のアプリ使用には、スクロール機能が有効なのか？一階層構成版とスクロール版の比較一	坊岡峰子、池野春香、柴崎千里、廣富哲也、玉榮陽介	日本言語聴覚学会	平成30年6月
アプリの適応に向けた階層構成版とスクロール版の比較①記憶障害・失読症の場合	柴崎千里、坊岡峰子、池野春香、廣富哲也、玉榮陽介	広島県言語聴覚士学術集会	平成30年6月
アプリの使用に向けた階層構成版とスクロール版の比較②失語症者の場合	池野春香、坊岡峰子、柴崎千里、廣富哲也、玉榮陽介	広島県言語聴覚士学術集会	平成30年6月
喉頭気管分離術により経口摂取可能となった一症例(査読有)	東山寛隆, 土本正治, 田中芳幸, 矢守麻奈	第19回日本言語聴覚学会	平成30年6月
要介護高齢者における酸味冷触刺激の効果	秋枝克昌, 矢守麻奈, 木村由香, 村田和弘	第19回日本言語聴覚学会	平成30年6月
高齢者の食事自立度に関与する高次脳機能の要因	山田幸子, 北川奈恵, 村松真理, 半田有葵, 矢守麻奈	第19回日本言語聴覚学会	平成30年6月
高齢者における食欲不振の要因	柴田八重, 矢守麻奈	第19回日本言語聴覚学会	平成30年6月
検診結果ビッグデータを用いた構造適応型Deep Belief Networkの癌予測システムと知識発見.	鎌田真, 市村匠, 原田俊英	2018 IEEE SMC Hiroshima Chapter Young Researchers WorkShop	平成30年7月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
発達障害児・者の正しい理解と支援	細川淳嗣	三原市発達障害支援コーディネーター研修	平成30年7月
Effectiveness of a communication app developed for people with aphasia	Booka Mineko, Kitamura Fuko, Hirotsomi Tetsuya, Sakai Miyabi	The 18th Biennial Conference of the International Society for Augmentative and Alternative Communication	平成30年7月
話す・聞く・食べる仕組みと言語聴覚士のシゴト「言語機能の障害(失語症)」	渡辺眞澄	県立広島大学 高大連携公開講座	平成30年7月
発達障害の診断と治療の実際	林優子	平成30年度教員免許状更新講習会	平成30年8月
発達評価の利用の仕方	堀江真由美	平成30年度教員免許状更新講習	平成30年8月
学習に困難さをもった児童・生徒への支援	細川淳嗣	平成30年度教員免許状更新講習	平成30年8月
発達障害児の行動理解とその対応	山西葉子	平成30年度教員免許状更新講習会	平成30年8月
中枢神経障害の基礎知識	林優子	平成30年度教員免許状更新講習会	平成30年8月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
コミュニケーションへの支援	玉井ふみ	平成30年度教員免許状更新講習	平成30年8月
姿勢・運動への支援	島谷康司	平成30年度教員免許状更新講習	平成30年8月
不適応行動に対する支援	吉岡和哉	平成30年度教員免許状更新講習	平成30年8月
子どもの食事	鴨下加代、土路 生明美	三原シティカレッジ すこやか子 育て講座	平成30年8月
まだ間に合う！認知症予防のお話.	原田 俊英	三原市ロータリークラブ例会卓話	平成30年8月
自律神経と生体リズム.	原田 俊英	カルビー株式会社 Calbee Future Labo 講演会	平成30年8月
アプリの使用に向けた階層構成 版とスクロール版の比較—記憶障 害・純粹失読の場合—	柴崎千里、 坊岡峰子、池野 春香、廣富哲也、 玉榮陽介	第33回リハ工学カンファレンス	平成30年8月
失語症者のアプリ使用には、階層 構成版よりスクロール版の方が有 効か？	坊岡峰子、 池野春香、柴崎 千里、廣富哲也、 玉榮陽介、	第33回リハ工学カンファレンス	平成30年8月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
栄養サポートと摂食嚥下リハビリテーション	矢守麻奈	日本静脈経腸栄養学会認定NST 専門療法士研修会	平成30年8月
Adaptive structural learning of deep belief network for medical examination data and its knowledge extraction by using C4.5.	Kamada S, Ichimura T, Harada T	The First IEEE International Conference on Artificial Intelligence and Knowledge Engineering (AIKE 2018)	平成30年9月
子どもの排泄	土路生明美、鴨下加代	三原シティカレッジ すこやか子育て講座	平成30年9月
地域で子どもたちを育むー三原市における発達支援の試みーシンポジウム「楽しめる療育をめざしてー自閉症特性を伸ばす子育てー」	林優子	第25回日本自閉症協会全国大会	平成30年9月
子どものスキンケア	鴨下加代、土路生明美	三原シティカレッジ すこやか子育て講座	平成30年9月
Japna and China comparative study for dementia by the constitution in Chinese Medicine Questionnaire (CCMQ)	程 為平, 細川淳嗣, 原田俊英	日中笹川医学奨学金制度第40期共同研究コース研究者集会	平成30年9月
パーキンソン病におけるコンビネーション医療について.	原田 俊英	パーキンソン病講演会in三原(共催:全国パーキンソン病友の会広島県支部/エフピー株式会社)	平成30年9月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
「花に水やり」課題を使用した認知症スクリーニングテストの開発	久野真矢	第52回日本作業療法学会(名古屋)	平成30年9月
通所介護施設を利用する高齢者の作業機能障害とIADL, 主観的QOLの関連	檀 拓真, 久野真矢, 中山 仁	第52回日本作業療法学会(名古屋)	平成30年9月
人工膝関節置換術後患者に対する『活動日記』を併用した作業療法の検証	平賀勇貴, 久野真矢, 許山勝弘, 平川善之	第23回日本ペインリハビリテーション学会(福岡)	平成30年9月
認知機能の向上とADL改善および在宅退院の関連	江原貴子, 松浦晃宏, 影山あゆみ, 森大志	第52回日本作業療法学会	平成30年9月
経頭蓋直流電気刺激による障害物回避歩行における二重課題コストの軽減効果	篠田亮平, 松浦晃宏, 石川衛, 吉野開, 森大志	第32回中国ブロック理学療法士学会	平成30年9月
イヤホンから出力したハイレゾリューション音が自律神経へ及ぼす影響について.	宮崎洋幸, 原田俊英, 石崎文子, 伊藤祥史, 二矢田勝行, 山本竜太	第71回 日本自律神経学会総会	平成30年10月
乳幼児の生活習慣	土路生明美	尾道市 ひまわり認定こども園子育て支援講座	平成30年10月
発達上課題のある学生のアセスメントと支援	林優子	平成30年度広島県専任教員継続研修	平成30年10月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
学校に期待することー将来を見据えたアセスメントと支援ー	林優子	第7回特別支援学校保健研究会	平成30年10月
認知症の兆候と予防について.	原田 俊英	県立広島病院・県立広島大学連携セミナー【カテゴリー】保健福祉～認知症を有する高齢者のケアのために～	平成30年10月
若年者のロコモティブシンドローム・サルコペニアの実態	田中創, 中林紘二, 久野真矢	第5回日本予防理学療法学会(福岡)	平成30年10月
通所介護施設を利用する高齢者の握力とADL, IADLの関連について	檀 拓真, 久野真矢, 中山 仁	九州理学療法士・作業療法士合同会2018in沖縄	平成30年10月
高負荷の筋力トレーニングが記憶の固定に及ぼす影響	秋永洋平, 中山仁, 檀 拓真, 久野真矢	九州理学療法士・作業療法士合同会2018in沖縄	平成30年10月
作業療法学生の手芸作業分析に対する質的研究～作業学実習のレポート分析を通して～	手島智康, 檀 拓真, 久野真矢	九州理学療法士・作業療法士合同会2018in沖縄	平成30年10月
聴覚障害児の育ち	佐藤 紀代子	西日本発達支援センター協議会	平成30年10月
急性期病院における窒息要因の検討	東山寛隆, 矢守麻奈	第19回広島保健福祉学会学術大会	平成30年10月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
・広島県立庄原特別支援学校 口腔機能向上に係る個別相談	細川淳嗣, 矢守麻奈		平成30年10月
<学会発表>声帯結節症例に対するhigh-pitched blowing vocal exerciseの試み	田口亜紀	第63回日本音声言語医学会	平成30年10月
知って得する！認知症の診断・治療・予防について.	原田 俊英	認知症講演会(主催:三原市高齢者福祉課)	平成30年11月
Transcranial direct current stimulation to dorsolateral prefrontal cortex improves the performance of obstacle avoidance gait task	Matsuura A, Shinoda R, Ishikwa M, Yoshino K, Karita T, Mori F	ACPT2018, Cebu city, Philippines	平成30年11月
発達障害児に対する感覚統合療法の効果指標についての一考察	山西 葉子, 土田玲子, 新庄 玉恵, 立山 清美, 伊藤祐子	第36回日本感覚統合学会	平成30年11月
Japan and China comparative study for dementia by the constitution in Chinese Medicine Questionnaire (CCMQ).	程 為平, 細川淳嗣, 原田俊英	第3回国際産学連携交流会	平成30年12月
男子大学生・大学院生の飲酒行動の実態	土路生明美、祖父江育子、池内和代、舟越和代、沖本克子	第38回日本看護科学学会学術集会	平成30年12月
発達障害を持つ子どものコミュニケーションの発達とその支援について	細川淳嗣	平成30年度 発達障害コメディカル養成研修	平成30年12月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
Association between Japanese Male University/Graduate School Students' Drinking Behavior and Stress	Akemi Torobu,Sobue Ikuko,Kazuyo Funakoshi,Katsuko Okimoto,Kazuyo Ikeuchi	The 4th Symposium for Nursing and Healthcare Professionals 2018	平成30年12月
知って得する！認知症の兆候と予防について.	原田 俊英	認知症セミナー(主催:損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険株式会社)	平成30年12月
The use of assessment tools and AAC strategies for clients with moderate to severe aphasia in Japan.	坊岡峰子	AAC International Conference Taiwan.(拡大代替コミュニケーション国際学会)基調講演	平成30年12月
摂食嚥下リハビリテーションと栄養管理	矢守麻奈	県立広島大学保健福祉学部 平成30年度第2回医療安全講習会	平成30年12月
失語症-単語と文の処理障害	渡辺真澄	第57回 名古屋大学大学院 人文学研究科・日本語教育学分野 公開講演会	平成30年12月
<講演>良い声を保つために-音声治療と声のアンチエイジング-	田口亜紀	長崎県耳鼻咽喉科専門医講座	平成31年1月
産後のご夫婦への支援	日高陵好	圏域産後早期ケア支援事業研修	平成31年1月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
自閉スペクトラム症児に伴う書き障害への対応	林優子	平成31年度第1回三原市小児科医会	平成31年1月
学習に困難を持った子どもの事例検討	細川淳嗣	第45回広島児童青年精神医学研究会	平成31年1月
幼少時期に何を見据えて指導するか	佐藤 紀代子	人工内耳教育セミナーin大阪	平成31年2月
「口から食べる」を支援するための摂食嚥下, 口腔ケア	矢守麻奈	広島県老人福祉施設連盟 平成30年度研修会	平成31年2月
<学会発表>田口メソッド(VFE短縮版)による音声治療効果の検討	田口亜紀	第31回日本喉頭科学会総会・学術講演会	平成31年3月
<学会発表>舌がん術後に2度の嚥下困難をきたし、バルーン拡張法にて嚥下機能が改善した1例	田口亜紀	第42回日本嚥下医学会総会ならびに学術講演会	平成31年3月

【外部資金】

タイトル	代表研究者名	制度名	研究期間
検診結果に基づく深層学習による予測システムの開発とひろしま健康長寿ネットワークの構築	市村 匠(原田俊英)	総務省, SCOPE	平成29～30年度
動詞活用の乱れは, 音韻, 意味の乱れと, 悪い友達	渡辺 眞澄	科学研究費補助金 (基盤研究C)	平成29～31年度
学齢期にある肥満症の発達障がい児への運動習慣に焦点を当てた看護介入の検討	鴨下加代	科学研究費補助金 (基盤研究C)	平成29～32年度
日本と中国における老年期認知症の比較	程 為平(細川淳嗣, 原田俊英)	公益財団法人日中医学 協会, 日中笹川医学奨 学金制度第40期共同研 究コース	平成30年8月～12月
ディスレクシア児の読字における視覚言語情報処理の特性と発達に関する脳科学研究	分担研究者: 細川淳 嗣 (代表者: 杉本明子)	科学研究費補助金 (基盤研究B)	平成30～32年度
認知症者の音声による他者の感情の理解	堀江真由美	科学研究費補助金	平成30～32年度
言語障害児・者を対象とした包括的言語検査に基づいた認知神経心理学的評価基準の開発	川崎医療福祉大学 種村純(分担: 渡辺 眞澄)	科学研究費補助金 (基盤研究B)	平成30～34年度

V 従事者名簿

医師

小児科	林 優子
リハビリテーション科	沖 貞明
内科	安武 繁
精神科	藤巻康一郎
耳鼻咽喉科	田口亜紀
神経内科	原田俊英
整形外科	住居広士
脳神経外科	森 大志

看護師

看護師	土路生明美
	鴨下加代
	日高陵子
	青井聡美
	池田ひろみ
看護師（専任）	井上セツ子
	大亀昭子
医療事務受付	塩崎恭子
	田坂春美
	村田智子

非常勤専門職員

医師	石崎文子
心理カウンセラー	山本映子
小児理学療法士	清水ミシェルアイズマン
臨床検査技師	児玉祐子
作業療法士	増田久美子
作業療法士	新庄玉恵

コメディカル

看護師	土路生明美
	鴨下加代
	日高陵好
	青井聡美
	池田ひろみ
理学療法士	金井秀作
	沖田一彦
	田中聡
	小野武也
	島谷康司
	長谷川正哉
	梅井凡子
	積山和加子
	高宮尚美
	金指美帆
	佐藤勇太
	岡村和典
作業療法士	吉川ひろみ
	小池好久
	久野真矢
	西田征治
	古山千佳子
	高木雅之
	吉岡和哉
	永吉美香
	山西葉子
	織田靖史
言語聴覚士	堀江真由美
	坊岡峰子
	細川淳嗣
	吐師道子
	玉井ふみ
	小澤由嗣
	長谷川純
	城本 修
	矢守麻奈
	佐藤紀代子
	渡辺真澄
	津田哲也
	中村 文
放射線技師	中村 悟
	飯田 忠行
社会福祉士	永野なおみ